

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

大阪教育大学附属天王寺中学校

指導者 安福 華世

1. 指導日時 令和7年 2月 8日（土）

2. 指導場所 大阪教育大学附属天王寺中学校 1年 各教室

3. 指導学級 第 1 学年 （生徒数 144名）

4. 単 元 名 「災害に備える」 開隆堂『技術・家庭 家庭分野』P238～239

5. 生 徒 観（本時を含む）

本校は大阪市南東部に位置し、上町断層帯に隣接している。大阪市が発表している上町断層系の活動による地震の想定震度では、震度6強の地震が発生すると予想されている。本校の生徒の約25%は併設の小学校からの進学者であり、残りの75%は受験を経て入学している。これらの生徒の多くは大阪府内に限らず、兵庫県、奈良県、京都府など広範囲から通学しており、電車を利用して登下校している。そのため、住んでいる地域によっては、1人で電車に乗って通学する生徒も少なくない。しかし、本校は市の指定避難所ではない。そのため、地震や台風、大雨などの大規模災害が発生した際には、生徒自身が主体的に命を守る行動をとる必要がある。学校で災害が発生した場合、帰宅困難になった生徒は職員とともに避難所の設営を行う必要がある。一方、登下校中であれば、周囲の人と協力し、安全確保に努めることが求められる。また、居住地域が広範囲にわたるため、それぞれの地域に応じた備えが必要である。登下校時の対応だけでなく、各家庭の地域における防災対策についても理解を深めることが重要である。

6. 題材目標

- 「災害時の食」の基本的な知識や技能を習得できる
- 「災害時の食」の課題を知り、どのような備えや対策が必要か考えることができる
- 学習内容を家庭で共有し、主体的に災害時の食の備えを見直そうとする

7. 指導計画

- 1時間（本時） 災害時の食生活に関心を持つ
- 2時間 災害時の一日分の献立を考える
- 3時間 「災害時の食」の調理実習を通して工夫や協力の大切さを実感する

8. 本時の目標

非常食といえば、カップヌードルやアルファ化米などを準備しがちである。しかし、災害時の炊き出しでは栄養バランスの良い食事が得られにくく、体調を崩しやすい。災害時でも健康を維持できるよう、農林水産省が提唱する「災害時の食」を参考に、栄養バランスの取れた非常食について考えさせたい。

9. 本時の展開

	学習内容・方法	ねらい・説明	補足・注意点
導入	<p>○阪神淡路大震災，東日本大震災の被害を確認する。</p> <p>○日本の自然災害リスクの高さを確認する。</p>	<p>・過去の大災害の被害を確認する</p> <p>・自然災害リスク評価の地図で他国との違いを確認する</p> <p>・被害予想の具体例を知る</p>	
発展	<p>発問</p> <p>○南海トラフ地震等、大災害が起こった時の予想される食の課題は何だろう</p> <p>○震災の被災者が体験した、食に関する問題点を知る</p> <p>○想定される食の課題を知る</p> <p>発問</p> <p>○「体を作る食べ物」「体の調子を整える食べ物」「エネルギーになる食べ物」を分類して用意しよう。</p>	<p>(予想される発言)</p> <p>・避難所で炊き出しを待つ</p> <p>・平等に対応してもらえるか</p> <p>・お年寄りや赤ちゃんの食事</p> <p>・栄養が偏る</p> <p>・便秘など体調が悪くなる</p> <p>・未曾有の災害の場合，国や地方自治体だけでは対応できないことに気づく</p> <p>どのような食の備えが必要だと思うか，授業で分かったことは何かを落ち着いて記入させる</p>	<p>・活発に意見が出るように声掛けをする</p> <p>・自分の身に起こったこととしてしっかり考えさせる</p> <p>・実際の食の変遷を写真で見せて考えさせる</p> <p>・各家庭で栄養バランスも考慮した備えが必要であることに気づかせる</p>
まとめ	<p>○本時の授業の感想を記入する</p> <p>○次時の調理実習について説明を聞く</p>	<p>・献立を確認する</p> <p>・災害食を調理する際のルールや注意事項の確認をする</p> <p>・実習の持ち物，班割を確認する</p>	<p>・アレルギーのある生徒には家庭で可否を必ず確認させる</p>

10. ご高評